

JAグリーン長野におけるスポーツ組織と 連携したファンづくり

主任研究員 尾中謙治

JAグリーン長野は、J3に所属するAC長野パルセイロ(トップチーム)とAC長野パルセイロ・レディースのシルバースポンサーとなって、JAや農産物のPR、地域貢献・活性化などに取り組んでいる。

1 冠試合でJA・農産物のPR

JAグリーン長野(以下「JA」)は、冠試合を年2回開催している(トップチームとレディース各1回)。開催は、管内の特産物であるモモやリンゴ、ブドウの収穫時期に合わせており、その特産物のチームへの贈呈や来場者へのプレゼント・抽選会、会場での販売などを通じて管内の農産物のPRを図っている。会場で販売する農産物は、地元だけでなくアウェーのサポーターにも人気があり、売り切れになることがある。これを機に継続購入する人もおり、新たな顧客獲得につながっている。JAは冠試合以外でも、ホームゲームのときは会場にJAの農産物や加工品を販売するブースを出店したり、ビジターゲームのときは毎回ではないが対戦チームの会場でリンゴなどの試食や販売をしたりして、農産物のPRを行っている。

また、JAの冠試合のときには、会場に組合員加入促進のためのブースを設置し、JAの事業などの説明を実施している。説明を聞いてくれた人にはAC長野パルセイロとのコラボ商品がプレゼントされる。過去の商品には箸や手袋があった。後日、話を聞いてくれた人に対して支所職員がアプローチすることも行われている。

ほかにも、会場周辺にJAののぼり旗を設置したり、会場でのボランティアスタッフには

胸元にJAのロゴが付いたビブスを提供している。会場に来るサポーターは、若い世代が多くJAとの接点が少ない人たちであり、JAとしては未利用者や次世代層にJAの認知を促す貴重な機会となっている。JA利用者にとっても、会場でJAを認識することによって、JAへの帰属意識を高めることにつながっている。

2 AC長野パルセイロと連携した組合員講座

JAは新規(当年1月から12月に加入)の組合員とその家族を対象に、管内にあるAC長野パルセイロのホームスタジアム「長野Uスタジアム」で「新規組合員講座」を開催している(新型コロナウイルス感染症の影響のため2020~21年度は中止。22年度は開催)。18年度は39組76人、19年度は29組50人が参加した。

講座の前半には、AC長野パルセイロの運営会社である(株)長野パルセイロ・アスレチッククラブ(以下「パルセイロ」)の協力のもと、試合観戦のときには入ることができないスタジアムの裏側ツアーが行われる。ロッカールームや実況席、VIPラウンジ、スタジアムのピッチを見学することができる。

後半は、小学生以下の子どもに対して、サッカーを中心とした運動教室がパルセイロのコーチのもと行われる。保護者に対しては、JAへの理解や参画を促すために、JAの事業や農産物の情報提供がJAによって行われる。JAとしては、スタジアムツアーや運動教室がインセンティブとなって、新規組合員講座に参加する人を増やすことができている。

パルセイロとしても、担当者によると「当講座を通じて地元住民、組合員にクラブを知

ってもらい、ファンになっていただくことができる。サッカーを知らない方や興味のない方を始め、クラブが普段関わる顧客層とは異なる方々にアプローチさせていただけるので、とてもありがたい。地元にあるサッカーチームの試合観戦にきていただけるきっかけ作りになる」と述べており、メリットのある取組みとなっている。

3 パルセイロ農園で食農教育

17年度からパルセイロとJA、JA青壮年部、JA女性部が地域の子どもたちへの食農教育の場として「パルセイロ農園」を開催している(20~22年度は中止)。内容は、タマネギの収穫や田植え、稲刈り、リンゴのシール張り、バーベキュー、サッカー教室などである。当日の農業に関する作業やその後の手入れなどはJAや子会社、青壮年部が担当する。

参加対象は小学生以下の子どもとその保護者、定員は内容によって異なるが10~20組、参加費は一人当たり数百円(傷害共済の掛金など)、募集はパルセイロのホームページやSNS、JAの広報誌、口コミで行われる。実際の参加者は、サッカーファンや農協と関わりの少ない地域住民や子どもたちが多く、パルセイロのスクールを通じて参加する親子もいる。パルセイロの選手も参加するので、農業体験だけだと参加に踏み切れなかったサッカーファンの参加も促している。パルセイロの



写真 パルセイロ農園の様子(JAグリーン長野提供)

選手にも農業体験を楽しんでもらえている。

パルセイロ農園の効果は、参加者に農業への興味・関心を持ってもらうことができたことである。生産者から作り方などの説明を受けることによって、普段食べている物に関心を持ったり、食べ物を大切にすることなどを学んでいる。また、初対面の参加者同士で農作業を一緒にすることによって、人との関係づくりやコミュニケーション能力の向上なども図られている。JAとしては、積極的に組合員への加入促進は行っていないが、良い関係が築けており、ファンづくりに貢献していると評価している。

4 地元スポーツ組織と連携することの意義

JAやパルセイロにとって地域は事業基盤であり、地域を維持・活性化しファンをつくることは両者にとって重要事項である。そのため両者が連携して、冠試合やJAの組合員講座、パルセイロ農園などを実施することは相乗効果があり、双方にメリットがある。また、青壮年部や女性部が、パルセイロ農園などを通じてパルセイロと関係を持つことによって、農業生産に対するモチベーションが上がったり、農産物のPRに前向きになるというプラスの変化も生じている。パルセイロ農園などの地域貢献に参加したパルセイロの元選手は地域に住み続けている人が多く、地域の人口増加にもつながっている。

パルセイロの担当者は、「スポーツクラブとJAグループの理念はとても近いと感じています。顧客サービスの向上を相互で連携して、地域の方々がより笑顔になれる形ができればと思います。また、農業の担い手不足、遊休農地などの地域課題をJAグループと各クラブが連携して解決していけるような仕組みができたら良いと思います」と述べている。

(おなか けんじ)